

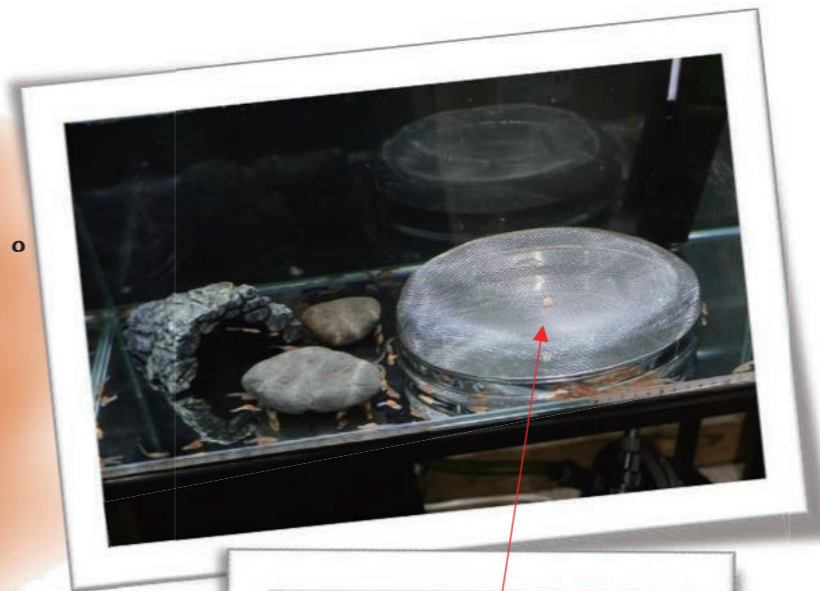
# サケの飼育記録

3



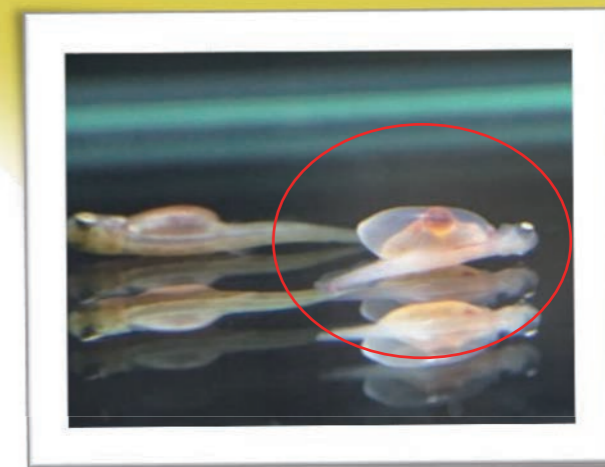
## 2019年1月29日

なかなかふ化しない卵がひとつ……。諦めきれずに待っていましたが朝、異変がおきていました。  
“卵に白いものがついている!!”  
カビには見えないのですが、もしカビだったら他のサケに移ってしまうので、その卵を別な水槽に移しました。もうふ化は無理でしょう。とても残念です。



## 2019年1月30日

昨日に続いて残念なサケを発見しました。写真の赤丸の中のサケは生きてはいますが、ほとんど動いていません。隣のサケと比べても、成長が止まっているのが一目瞭然です。それでも心臓は力強く動いています。何とか頑張ら!!



## 2019年1月31日

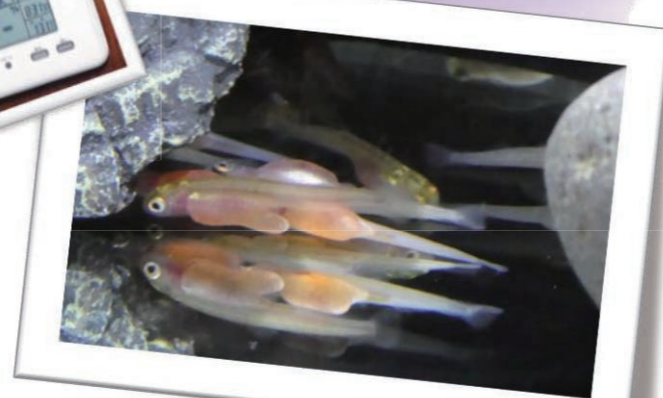
小学校のサケの様子を見てきました。成長が早いです。お腹の袋が目立たなくなっていました。学校の廊下に水槽が置かれていますが、暖房が入っていて常に暖かいので、クーラーで自動的に水を冷やしても平均水温が高めになるのだと思います。(今の学校は廊下も暖かくて羨ましい……)ただ、サケは寒さには強くて暑さには弱いので、万が一クーラーが故障して水温が15℃を超えると全滅の恐れがあります。寒い部屋と暖かい部屋のどちらで飼育するか迷った時は寒い部屋がおすすめです。



※寒い場所で飼育する時はヒーターにサーモスタットを取り付けて水温調節をしますが、これもサーモスタットが故障するとヒーターがつかっぱなしで高温になってしまう事があるので、油断はできません。

## 2019年1月31日

私たちの育てているサケは学校のサケと比べると、成長が2週間くらい遅れているようです。備え付け装置の設定温度は同じ7℃ですが、こちらはバケツの水が凍るくらいの部屋なので、平均水温が低いのでしょう。水槽を明るくして観察すると、サケ達は石の下にもぐって隠れようとしています。自然界ではこの時期のサケは石の隙間でジッとしています。



こんなに成長が違う……

自然界のサケの様子



サケのメスは砂利を掘ってその中に卵を産み、上から砂利をかぶせます。旭橋でサケが卵を産んでいるのを見たのは10月。水槽より川の水が冷たいことを考えると、まだ卵の状態、上の写真のように石の隙間にいると思われます。



産卵床がわかりますか？砂利が積み上がっている所です。藻がとれて石がきれいになっているので見つけやすいです。約1mの長さの産卵床に3,000粒前後の卵が産み落とされており、命の続く限りメスが近くで卵を守っています。